

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年9月19日(2013.9.19)

【公表番号】特表2011-518238(P2011-518238A)

【公表日】平成23年6月23日(2011.6.23)

【年通号数】公開・登録公報2011-025

【出願番号】特願2011-502306(P2011-502306)

【国際特許分類】

C 0 9 D 133/04 (2006.01)

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

C 0 9 J 133/04 (2006.01)

C 0 9 K 3/10 (2006.01)

C 0 8 F 20/10 (2006.01)

C 0 8 F 8/00 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 133/04

C 0 9 D 11/00

C 0 9 J 133/04

C 0 9 K 3/10 E

C 0 8 F 20/10

C 0 8 F 8/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年8月9日(2013.8.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

顔料用の良好な分散特性、良好な光沢及び高い熱安定性を有する(メタ)アクリレートをベースとする結合剤の製法において、

該方法が混練機中における連続的塊状重合法であること、

反応温度を20～250の間で自由に調節可能であること、

結合剤を専らモノマー及び開始剤並びに場合により連鎖移動反応試薬及び最高10質量%の溶剤から成るモノマー混合物から製造すること、

好適な反応温度の調節によってポリマーのタクチシティに影響を与えること、ここで、シンジオタクチックトライアドの割合は懸濁重合を用いて製造した同じ組成のポリマーにおけるより小さい、並びに

反応器に後続した装置中で160より高い反応温度で熱により後処理することによって214まで結合剤の熱安定性を改善すること

を特徴とする結合剤の製法。

【請求項2】

反応温度が100より上であること、並びにモノマーが専らメタクリル酸及び/又はメタクリル酸のエステルであることを特徴とする、請求項1に記載の結合剤の製法。

【請求項3】

請求項1又は2に記載した重合法により製造した塗料用の(メタ)アクリレートをベースとする結合剤であって、

専らメタクリル酸及び／又はメタクリル酸のエステルから成る結合剤が 214 までの、有利には 230 までの熱安定性を有すること、ガラス転移温度が、懸濁重合を用いて 80 で製造した同じ組成のポリマーにおけるより 2 だけ低いこと、シンジオタクチックトライアドの割合が懸濁重合を用いて製造した同じ組成のポリマーにおけるより小さいことを特徴とする結合剤。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の結合剤を金属表面、プラスチック表面、セラミック表面又は木材表面の被覆用の塗料配合物において用いる使用。

【請求項 5】

請求項 3 に記載の結合剤を船舶用インキ、コンテナ用インキ、印刷インキ又は建造物用インキにおいて用いる使用。

【請求項 6】

請求項 3 に記載の結合剤を道路標識又は床被覆において用いる使用。

【請求項 7】

請求項 3 に記載の結合剤を反応性溶融接着剤、ヒートシールラッカー、接着剤又はシリコントにおいて用いる使用。